



次世代システムプロデュース はじめの一歩

学術情報システム総合ワークショップ（磯本、岩井、大谷、堀野）

2018年9月14日

育成したい人材像

- 次世代の学術情報システムをプロデュースできる人材の育成
 - 政策、海外事情、ICTの動向を把握している
 - 要件定義を通じて、学内関係者やシステムベンダーとコミュニケーションをとることができる
- 研修を通じて得られるスキル
 - 現状の課題を認識し、次世代のシステムを構想できる
 - 実現したい機能から要件定義を行うことができる

実施要項

▶ 受講対象

- ▶ 1~2年の間にシステムの仕様策定に関わることが想定される図書館職員
- ▶ 定員20名

▶ 実施期間

- ▶ 3日間
- ▶ ただし事前課題あり（自館のシステムの課題・改善したいところ）

▶ 年2回開催5年間継続

- ▶ 総参加者数200名、各都道府県に受講経験者が3～4名



実施体制

■ 講師

- 5名（講義5コマ）

■ スタッフ

- ファシリテーター 4名
（学術情報システム総合ワークショップ経験者などから）
- 最終選考に協力してもらえるシステムベンダ3社程度
- 全体統括・運営



題材とするシステム

- 今回は図書館システム
- 次回以降はトレンドに応じて変えていく。
 - 例) 研究データ管理、デジタルアーカイブ

日程概要

1日目	オリエンテーション 趣旨説明（国立大学図書館協会ビジョン2020など） 講義：学術情報流通の動向 海外の学術情報システム関連動向 異業種でのICT活用事例 グループワーク
2日目	講義・演習：要件定義 グループワーク 中間報告 企画書ラフ
3日目	グループワーク 最終発表 企画書、全体像（オーバービュー）、実現したいこと（要求）一覧 講評



事前課題

- 自己紹介を含めて、以下の内容を5分程度スピーチできるようにしておく
 - 自館および自館システムの概要
 - 組織規模（蔵書数等各種統計）
 - 自館システムの課題・改善点
 - 業務効率化やサービス向上が見込まれるもの

1日目

開始	終了	プログラム	内容
9:30	9:50	オリエンテーション	
9:50	10:20	趣旨説明	ビジョン2020→政策、ICT人材
10:30	11:30	学術情報流通の動向	背景、今後の目録（NCR、RDA）、DD、eリソース
11:30	12:30	海外の学術情報システム関連動向	LSP、ディスカバリー
13:30	14:30	異業種のICT活用事例	次世代戦略、サービス設計、ICT技術
14:40	15:30	グループワーク1	
15:30	16:00	テーマシェア	
16:00	17:30	グループ分け	



趣旨説明

- 国大図協ビジョン2020
 - 背景としての政策動向
 - 求められる人材像
 - ICT技術
- 

学術情報流通の動向

- 数年後の図書館システムの現実的な課題として、CAT 2020などを中心に国内動向を紹介
- これからの学術情報システム構築検討委員会
 - 設置の背景
 - CAT2020
 - 今後の目録の展望（NCR、RDA）
 - ドキュメントデリバリー、eリソースへの対応



海外動向

- 次世代を考えるヒントの一つとして海外の図書館システム動向を紹介
- Library Services Platform
 - Alma、WorldShare Management Services
- ディスカバリーサービス
 - Summon、EBSCO Discovery Service



異業種のICTシステム

次世代を考えるヒントとして、情報検索や物流管理の先進的事例を紹介

- ➡ 次世代戦略
 - ➡ サービス設計
 - ➡ ICT技術
-
- ➡ 例：Google、Amazon、ZOZO town、メルカリ、DAZN、Netflix、楽天、DNP、クロネコヤマト

グループワーク1

- 最初は機械的に分けたグループ（5人×4グループ）
 - 事前課題の共有（5分×5人）
 - テーマ案としての取り組みたい理想像を語る（1つでも複数でも）
- ワールドカフェ方式で、全グループのテーマ案を共有
- 取り組みたいテーマに基づいて、再度グループ分け
- グループごとに「次世代システムではどんな機能が必要か？」を考える

2日目

開始	終了	プログラム	内容
9:30	11:30	要件定義に関する講義・演習	定義、要件定義の流れ（企画、全体像、実装機能）、成果物
11:30	15:00	グループワーク2	次世代の企画案作成
15:00	16:00	中間発表・シェアリング	
16:00	17:30	中間発表を受けての修正	



要件定義に関する講義・演習

- 定義
 - 要件定義の流れ（企画、全体像、実装機能）
 - 成果物
 - 演習
- 



グループワーク2

- グループワーク1で考えた次世代システムの機能を実現させるため、具体的な企画を立てる
 - 企画案
 - 実現によって期待される効果



中間発表・シェアリング

- 中間発表（4グループ×10分）、シェアリング20分
- 企画案のラフを、ワールドカフェ方式で共有
- コメントを受けて企画をブラッシュアップ

3日目

開始	終了	プログラム	内容
9:30	14:00	グループワーク3	全体像、実装要件、発表準備
14:00	16:00	最終発表	
16:00	16:30	企画採否・講評	
16:30	17:00	終了式	



グループワーク3

- 全体像（オーバービュー）作成
 - 実装要件作成
 - 発表準備
- 



最終発表、企画の採否・講評

- 発表（4グループ×30分）
- ベンダから評者として参加していただき、企業の視点から講評をもらう。
 - 評価のポイント 要件定義、実現可能性



まとめ

- 成果物
 - 企画書案を公開共有する
- 裏テーマとして、受講生や関係者間のコミュニティの形成
 - コミュニティによる継続的な学びや情報共有
- 次世代のシステムを構想し、実現していく力を持った人材を育成